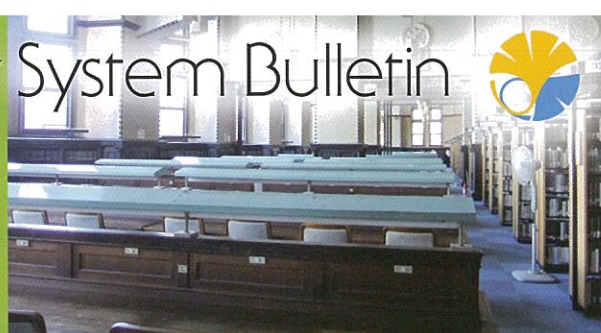




図書館の窓

2012.2



図書館の
マナーとルール
守っていますか？

図書館は大学の構成員や地域の住民の方々も利用することができます。多くの人が利用する場所であるからこそ図書館にはマナーとルールがあります。

普段から良く利用する図書館・室のマナーとルールを、あらためて確認してみてください。

東京大学には30以上の図書館・室があり、それぞれルールが異なります。まずは普段よく利用する図書館・室で確認してみましょう。



館内や閲覧席は学習のためのスペース

快適な学習スペースを確保するために、会話や携帯電話での通話は控えてください。



ディスカッションできる「グループ学習室」のある図書館・室があります。



館内で利用した図書の返却は指定された場所へ

元の場所に戻す場合、返本台に置く場合など、図書館・室によって異なります。返却場所が分からなくなった時は、図書館職員へ。



図書は未来の利用者も使います

返却期限は守りましょう。書き込み、切り取りはやめてください。また、糊付の付箋は資料を傷めますので、使用はご遠慮ください。



貸出期間の延長は、MyOPACまたは図書館カウンターへ。



持ち込みパソコンは決められた場所で

持ち込みパソコンが使える図書館がありますが、使用できる場所が決められている場合があります。



この他にも

館内は禁煙、飲食は原則できません。
(一部条件付きで許可されている場合もあります)
指定された場所以外での携帯電話等の通話はご遠慮ください。
席を離れる場合は貴重品を必ず携帯してください。





Academic Commons Projectが スタートしました

現在計画中的の新図書館構想で基本コンセプトとして掲げられた"Academic Commons"。その精神を一定早く実現するものとして、附属図書館では"Academic Commons Project"の名を冠したイベントを連続開催いたします。11月、12月には2つのイベントが開催されました。今後も順次開催予定です。



東京大学新図書館構想 特別講演会

「アカデミックコモンズとしての大学図書館 John Unsworth教授を迎えて」

11月30日(水)に総合図書館で開催されました。図書館情報学の第一人者であり、デジタル人文学の国際的なリーダーとしても著名な、イリノイ大学のジョン・アンズワース教授をお招きし、知のデジタル化を背景としたアカデミックコモンズとしての大学図書館のあり方について、ご講演いただきました。



総合図書館ブックトーク -1-

「現代アメリカ小説の面白さ —オースター、ミルハウザーを中心に」

柴田元幸教授(大学院人文社会系研究科)

本学の教員が、自身の選ぶ本や読書などにまつわることを語る「ブックトーク」が12月15日(木)総合図書館で開催されました。

第1回目は、柴田元幸教授を招いて近年アメリカ文学界に起こっている変化や、英文学との対比について解説していただきました。

ブックトーク後半では、参加者との対話を通じて議論を深め、さらに多数の作家についてもご紹介いただきました。

今回のブックトークは、閉館日を利用して、普段閲覧室として利用されている外国雑誌閲覧室が開放されました。新図書館においても、イベント開催のためのスペースが予定されています。



PDF版 : <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/kanpo/>

附属図書館ホームページ : <http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/>